

暦(こよみ)

| 南区・谷山支部 | 水枝谷 渉

1年間とは、地球から見て太陽が黄道上の同じ位置(点)に達する(あるいは通過する)までの時間が、365.2563日のことであるが、端数の0.2563日を組み込むために、その4倍がほぼ一日になることから4年に一度の閏年を設定して調整されている。その経緯を辿ると先ず、西暦325年、ニケア(地名:ニカイアとも言う)の宗教会議で、復活祭の日を決定する必要上、春分の日を毎年3月21日と決めた。しかし当時西洋ではユリウス暦を使っていたため、1582年には実際の春分の日が3月11日になっていた。そこでグレゴリウス13世はニカイアの宗教会議の決議を遵守するため置閏法を制定し、西暦年数が4の倍数になる年を閏年とした。ただし100の倍数の場合、これを100で除した商が4の倍数でない年はこれを平年とする。例え

ば1700年、1800年、1900年は平年ということになる。この改正によって400年に3日の閏日が除かれ、1年の平均日数は365.2425日となった。これをグレゴリオ暦と言ひ、二万年で一日以内の誤差の精度をもって世界各国で現在に至るまでなお、続けられている。さて本邦日本には古来からの暦というものはなかった。他の文化と同様に、暦も中国から伝えられたものであり、七世紀ごろ、中国から太陰暦、太陽暦が伝えられた。これはその後10回あまりの改暦を経て、明治の初めまで1300年間に亘って用いられたが、明治6(1873)年以來、太陽暦が用いられている。初期に中国から伝えられた暦は、日にちや季節を知ること以外にも、吉凶を見るなど、人々の生活に深く密着しながら独自の発展を遂げている。

